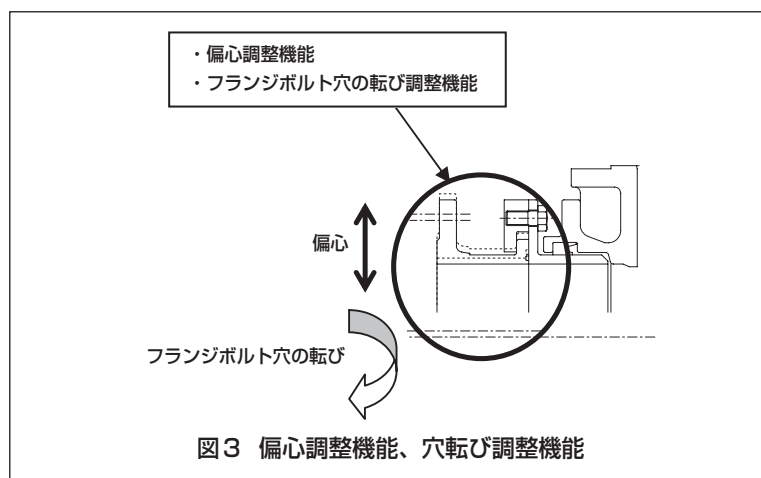
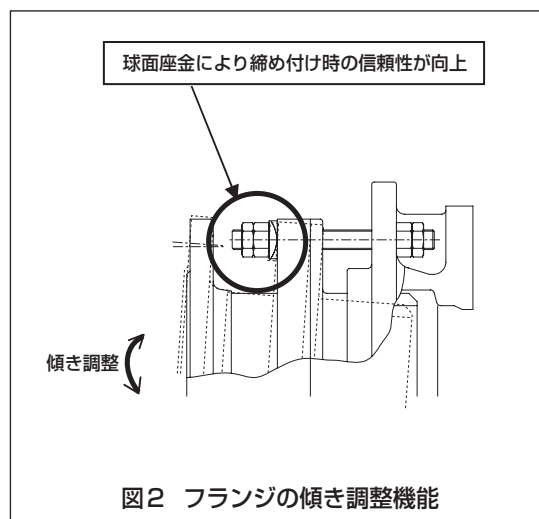
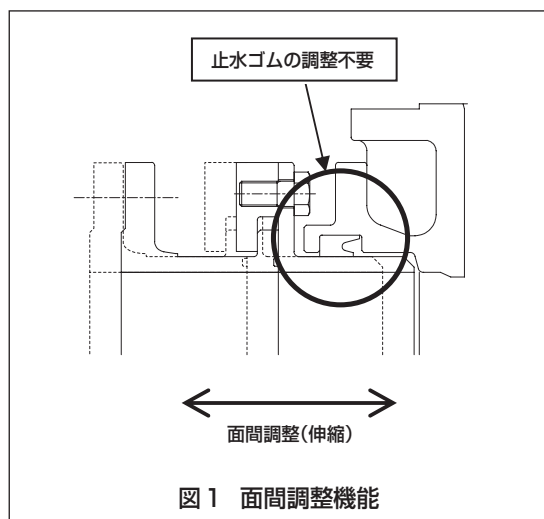


新型面間調整バタフライ弁



1. はじめに

近年、長年使用されてきたバルブを更新する工事が増加しています。この時、古い管路では伸縮継手を設置していないことが多いため、更新時にバルブと伸縮継手の両方を設置する必要がありました。そこで当社では面間調整バタフライ弁を開発し、更新時の資材と工数の削減を実現しました。

初期の面間調整バタフライ弁は、

面間調整機能とフランジの傾き（撓み角度）調整機能しか有していなかったため、実際の更新作業時に、管路の芯に平行な偏心が生じた場合、これに対応することが困難でありました。

そこで今回、偏心を少しでも吸収するために、新たに偏心吸収機能を追加した面間調整バタフライ弁を日本ヴィクトリック（株）の特許出願中の継手構造を採用し、開発をすすめ

ました。この機能を追加することにより、フランジのボルト穴の転びも初期型以上に吸収することが可能となりました。

これらの機能を追加することにより、今まで以上に管路更新時の水密の信頼性を向上することができました。

2. 特長および構造

a) 面間調整が可能(図1)

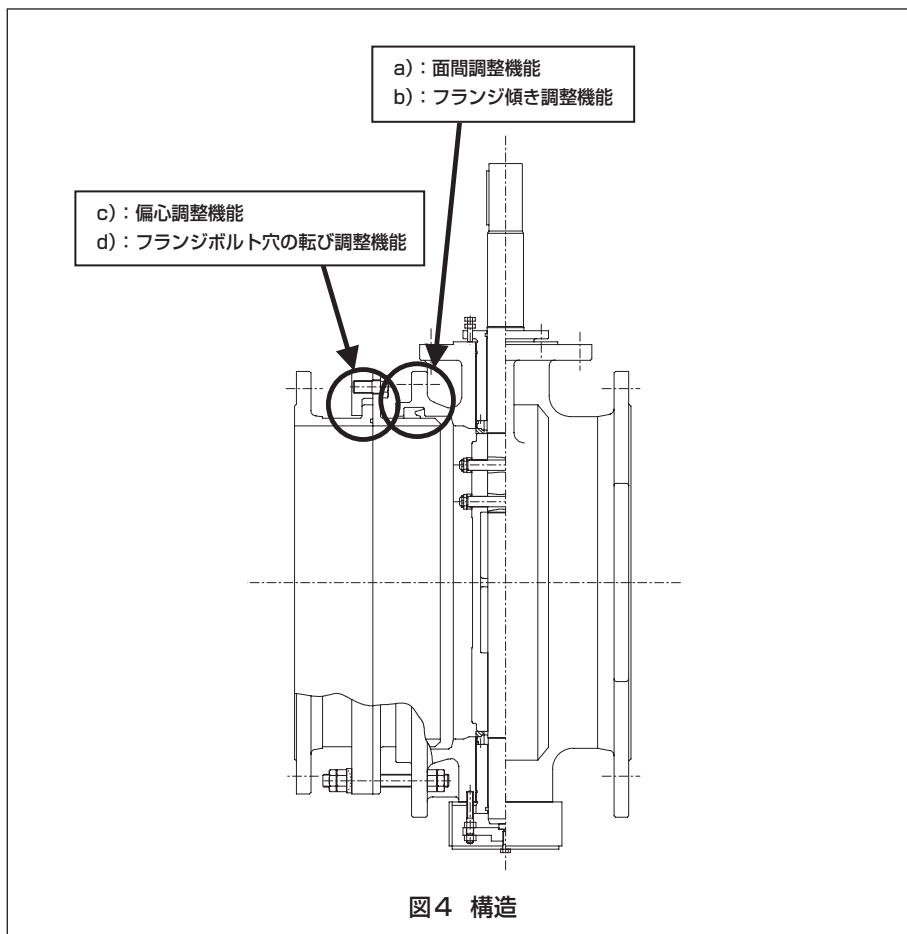


図4 構造

- b) フランジの傾き(撓み角度)を調整可能(図2)
- c) 管路の偏心に対応可能(図3)
- d) フランジのボルト穴の転びに対応可能(図3)

2-1. 新機能

- (1) フランジ付短管をフランジ部と面間調整部に分割することにより、
 - ① フランジの芯とバルブの芯を偏心することが可能
 - ② フランジのボルト穴の位置を調整することが可能になりました。
- (2) 球面座金の使用により、フランジの傾きを調整する場合の締付けの信頼性が向上しました。

2-2. 作業性向上

止水ゴムの変更により、押し輪を削除し、ゴムの調整を不要にしました。

※当社標準のバタフライ弁に偏心吸収機能部を付加した構造としているため、バタフライ弁としての基本機能は高い信頼性を有しています。(図4)

3. 標準仕様(JWWA B 138に準拠)

- a) 名称：新型面間調整バタフライ弁
- b) 呼び径： $\phi 200 \sim \phi 1000$
- c) 適用流体：水道水、工業用水、農業用水
- d) 使用圧力：0.75 MPa以下(1種、2種)及び1.0 MPa(3種)
- e) 許容伸縮量(※口径により異なります。)
 - ・ 伸び(+)側：8mm～10mm
 - ・ 縮み(-)側：20mm～40mm
- f) 許容撓み角度(※口径により異なります。)
- ・ $1.0^{\circ} \sim 2.0^{\circ}$
- g) 許容偏心量： $\pm 5\text{mm}$

※但し、口径 $\phi 200$ については偏心調整機能無しとなります。

h) フランジボルトの穴転び調整可能
※但し、口径 $\phi 200$ についてはボルト穴のクリアランス分の転びのみ調整可能となります。

4. おわりに

不要な工事を削減し、工事の工程を短縮することにより、環境負荷への配慮という観点からも新型面間調整バタフライ弁の拡販に努めていきます。

製品取扱営業窓口：

パイプシステム営業本部
06-6538-7653